

研究・調査報告書

報告書番号	担当
167	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Blockade of central neuropeptide Y (NPY) Y2 receptors reduces ethanol self-administration in rats. 中枢の NPY2 レセプターの阻害はラットでエタノールの自発的摂取を抑制させる	
執筆者	
Thorsell A, Rimondini R, Heilig M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Neurosci Lett. 2002;332(1):1-4.	
キーワード	
NPY、BIIE0246、エタノール	
要 旨	
<p>中枢性 NPY レセプターの活性化は摂食、記憶障害、ストレスに対する行動の拮抗など様々な影響を及ぼすことが知られている。また、ノックアウトマウスやトランスジェニックマウスを用いた実験ではエタノールの摂取行動に NPY が何らかの役割を果たしていることが示唆されるが、エタノール摂取に関する詳細な研究はほとんどない。本研究では選択的な NPY-Y2 レセプターのアンタゴニスト BIIE0246 がオペラント行動や甘味溶液中に含まれるエタノールとコントロールとしてエタノールを含まない甘味溶液の 2 瓶提示による選択実験に与える影響について検討した。</p> <p>BIIE0246 を 1 nmol 脳室内投与することによりエタノールの摂取量が 40%抑制されたが、0.3nmol 脳室内投与では効果は観察されなかった。サッカリン溶液に対しては有意な影響は観察されなかった。投与量による行動効果を探索自発運動量で評価したところ、3nmol 以上では鎮静効果が観察されたが 1nmol ではその効果は観察されなかった。</p> <p>以上の結果から、中枢 NPY-Y2 レセプターの拮抗が選択的にエタノールに対するオペラント自己摂取を抑制する。これは NPY-Y2 レセプターがアルコール依存症の新奇な薬理的処置のターゲット候補になることを示唆している。</p>	